

# 動詞「あつまる」の意味分析

——日本語教育の観点から——

李 澤 熊

## 1. はじめに

動詞「あつまる」は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の1つとなっている。しかし、「あつまる」は多様な意味を担っている多義語であるため、その学習指導方法というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類<sup>1)</sup>を調べてみると、「あつまる」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「あつまる」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにする。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について検討する。

具体的な考察に入る前に、まず多義語の基本的な性質、多義語の位置づけについて先行研究を踏まえて概観する。国広（1982）は、多義語と同音異義語について、次のように定義している。

「多義語 (polysemic word)」とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う。(国広 1982: 97)

「同音異義語」とは、同一の音形に、意味的に関連を持たないふたつ以上の意味が存在する場合に生じるふたつ以上の語のことである。(国広 1982: 97)

上記のように、国広（1982）は「多義語」と「同音異義語」を区別する基準として、意味的な関連の有無を提示しているが、これは決して明確なものではなく、「同音異義と多義の現象は、本質的に連続しているのであり、境界を定めようとするのがそもそも無理なことであると考えるべきである (p. 108)」と述べている。さらに、具体的に観察されるふたつ以上の

(1)

意味が、多義であるのか、単一の意義素<sup>2)</sup>の文脈の変容であるかの判断基準について、「ある一定の意味を想定し、それが文脈の相違に平行して少しずつ変わって現れると考えられるか否かということである (p. 109)」と述べている。このように、同音異義語、多義語、単義語 (単一の意義素の文脈の変容) のそれぞれの境界を明確にすることは困難であり、連続的であるという立場を取っている<sup>3)</sup>。本稿では、多義語の定義、位置づけなどについて、基本的に上記の先行研究と同じ立場に立って、考察を進めていく。

また、靱山 (2001) は多義語の分析において明らかにしなければならないこと、即ち、多義語分析の課題として、少なくとも以下の 1)~4) が考えられると述べている。

- 1) 何らかの程度の自立性を有する複数の意味 (多義的別義) の認定
- 2) プロトタイプの意味の認定
- 3) 複数の意味の相互関係の明示
- 4) 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

本稿では、上記の課題のうち、主に 3) と 4) の課題について詳しく検討する<sup>4)</sup>。

まず、3) の課題について、靱山 (2001: 33) は多義語の定義から必然的に導かれるものであるとし、「多義語の複数の意味は相互に何らかの関係が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」と述べている。また、「多義語の実際の分析を通して、複数の意味の間には一般にどのような種類の関連が認められるかということ明らかにすることも重要な課題である」とし、「メタファー、メトニミー、シネクドキーという 3 種の比喩が、複数の意味の関連付けに重要な役割を果たすと考える」と述べている。本稿では、多義語の複数の意味の関連性を比喩の観点から考察する。なお、それぞれの定義と具体例 (の一部) は靱山 (2002, 2010)、靱山・深田 (2003) に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。

例) 外見の類似性に基づくメタファー：「トンボ」という語には、〈グラウンド整備の道具 (の一種)〉という意味もあるが、この意味は、この道具が、昆虫の「トンボ」(「トンボ」の本来の意味) の形に似ていることに基づくものである。つまり、外見の類似性に基づくメタファーと考えられるものである。

抽象的な類似性に基づくメタファー：「故障」とは本来〈機械などが正常に機能しなくなること〉であるが、「肩の故障で、今シーズンを棒に振ってしまった」というように、「人間」に関して使われる場合もある。この場合の「故障」は〈スポーツ選手などの体（の一部）が正常に機能しなくなること〉である。この新しい意味は、〈正常な機能が果たせなくなること〉という本来の意味との共通点（つまり、抽象的な類似性）に基づくメタファーと考えられるものである。

シネクドキー：より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。なお、より一般的な意味とは、相対的に外延が大きい（指示範囲が広い）ということであり、より特殊な意味とは、外延が小さい（指示範囲が狭い）ということである。

例) 「人」はより一般的な意味としては概略「人間一般」であろうが、「人に頼ってはいけない」における「人」は〈自分以外の人間〉を表し、「政界に人なし」における「人」は〈優れた人間〉を表している。つまり、いずれの場合も、「人」という語が〈人間一般〉という意味よりも特殊化された意味で使われていることになる。

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩<sup>5)</sup>。

例) 空間における隣接：「黒板を消す」という場合、〈黒板〉と〈黒板に書かれた文字〉が隣接していることに基づいて、本来〈黒板〉を表す「黒板」という形式を、〈黒板〉と隣接している〈黒板に書かれた文字〉を表すのに用いる。

時間上の隣接性：「この問題を前にして、頭を抱えてしまった」における「頭を抱える」は、〈困り果てる〉といった意味である。「頭を抱える」という表現でこのような意味を表せるのは、私たちは、困り果てるという精神状態のときに、頭を抱えるという動作をする場合があるからである。つまり、〈困り果てる〉という精神状態と〈頭を抱える〉という動作が同時に生じることに基づき、本来は動作を表す「頭を抱える」という表現で、〈困り果てる〉という意味も表していることになる。

原因と結果の関係：「Aさんは目に見えて上達した」における「目に見えて」という表現は、本来は〈視覚で捉えられる〉ことを表すが、ここでは〈はっきりとわかるほど〉という意味である。「目に見えて」がこのような意味を表せるのは、視覚で捉えられたのであれば、はっきりとわかると考えられるからで

ある。つまり、〈視覚で捉えられる〉ことが原因であり、〈はっきりと分かる〉ことが結果であるという関係にあり、「目に見えて」は、本来は原因を表すが、メトニミーによって結果を表していることになる。

次に、4)の課題について、靱山(2017)は、課題3)をさらに発展させたものであるとし、「多義語の複数の意味の相互関係を明示することに加えて、個々の意味に共通する意味(スキーマの意味)を抽出すること、個々の意味を構成要素として含むフレーム<sup>6)</sup>を明示すること、多義構造全体における個々の意味の位置付けを示すこと等が課題となる」と述べ、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という課題を提示している。なお、靱山(近刊)はこの課題の解決を目指したものとして、「放射状ネットワークモデル」、「スキーマティック・ネットワークモデル」、「フレームに基づくモデル」を統合したモデルを提案しており、「この統合モデルは、放射状ネットワークモデル、スキーマティック・ネットワークモデル、フレームに基づくモデルを統合したものであるから、3つのモデルの優れた点はそのまま継承し、さらにこれらを統合することによって、ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデルである」と述べている。本稿では、この統合モデルを援用して分析を行う。

## 2. 「あつまる」の意味分析

### 2.1. 「あつまる」の意味

本節では、「あつまる」について5つの多義的別義を認め、考察を行う。

#### 2.1.1. 多義的別義(1)<sup>7)</sup>: 〈離れた場所に存在する〉〈複数の人・組織・動物が〉〈移動して〉〈一箇所にとどまる〉

- (1) イベント会場には5千人を超えるファンが【集まった】。
- (2) 湘南のビーチに若者たちが【集まって】くる。
- (3) この河口は、冬になると野鳥がたくさん【集まって】くる。
- (4) 名古屋国際会議場で開催された合同企業説明会には、世界各国から多くの企業が【集まりました】。
- (5) この公園の広場は、お昼の時間になると野良猫たちが【集まって】くる。

別義(1)は、もともと離れた場所にいた複数の対象物が、何らかの形で移動して、ある場所にとどまることを表す。集まる対象は(仲間、学生、企業などの)人や組織、(魚、鳥、虫な

どの) 動物 (生き物) である。

### 2.1.2. 多義的別義 (2) : 〈離れた場所に存在する〉〈複数の物事が〉〈(何らかの働きによって) 移動して〉〈一箇所にとどまる〉

- (6) チャリティコンサートで予想以上に多くのお金が {集まった}。
- (7) 原子力撤廃を願い、世界中から署名が {集まって} いる。
- (8) 道路は中央部が膨らんでいて、路肩に雨水が {集まる} ように設計されている。
- (9) これだけの証拠が {集まれば}、確実に起訴できる。
- (10) 地元のグルメイベントに出店を申し込んだが、思うように食材が {集まらず} 断念した。

別義 (1) は、もともと離れた場所にいた複数の人や動物が、自らの意志によって移動し、ある場所にとどまることを表すが、別義 (2) は、資金、食材、情報、アイデアなどの物事が、何らかの働きによって移動し、ある場所にとどまることを表す。ただし、いずれも「問題となる複数の対象物が何らかの形で移動し、一箇所にひとまとまりの状態で存在する (スキーマ①)」という点では共通している。つまり、別義 (2) は、別義 (1) からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

### 2.1.3. 多義的別義 (3) : 〈複数の人や組織が〉〈ある組織の構成員になる〉

- (11) 生徒数の減少で野球部員が {集まらず} 困っている高校が多いらしい。
- (12) この就活ナビサイトには優良中小企業がたくさん {集まって} いる。
- (13) 地域活性化のために市民活動促進協議会を設置したが、会員がなかなか {集まらない}。
- (14) 新規入所児童を募集したところ、あっという間に定員を超える園児が {集まった}。
- (15) 前回のオリンピックでは、世界中から約5万人のボランティアが {集まった} そうだ。

別義 (1) は、離れた場所にいた複数の対象物が移動し、ある場所にとどまることを表すが、別義 (3) は、単に「問題となる対象物が移動し、ある場所にとどまる」ことを表しているのではなく、さらに進んで (ある場所 (組織) にとどまることによって) その組織の構成員になることを表している。つまり、別義 (1) と別義 (3) は、時間的に隣接して生じるという関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、これらの意味は「(何らかの組織への) 所属」というフレーム内に位置付けることができる。つまり、

「(何らかの組織に所属するための) 移動」というところに注目する場合は別義(1)となり、「(移動した結果) 何らかの組織の一員」というところに注目する場合は別義(3)となる。

#### 2.1.4. 多義的別義(4)：〈複数のものが〉〈一箇所に集中する〉

- (16) 腸は第二の脳と呼ばれるほど、多くの神経が {集まって} いる。
- (17) この町には IT 関連企業がたくさん {集まって} いる。
- (18) 霞ヶ関には、外務省や財務省、文部科学省など国の省庁が {集まって} いる。
- (19) この地区には、高級別荘やコンドミニアムなどがたくさん {集まって} いる。
- (20) 百貨店やショッピングセンターなどの商業施設は、大体駅周辺に {集まって} いる。

別義(1)は、離れた場所にいた複数の対象物が移動し、一箇所にとどまることを表す場合に用いられるが、別義(4)における複数の対象物は移動しているわけではなく、ある場所に集中して存在していることを表す。ただし、いずれも「問題となる複数の対象物が一箇所にひとまとまりの状態が存在する(スキーマ②)」という点では共通している。つまり、別義(4)は、別義(1)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。なお、別義(4)は基本的に「～ている」の形で用いられる。

#### 2.1.5. 多義的別義(5)：〈複数の人の心的営みが〉〈一点に向けられる〉

- (21) 核開発の問題に、世界中の関心が {集まって} いる。
- (22) 霞ヶ関の一連の不祥事をめぐり、現政権に批判が {集まって} いる。
- (23) この品質でこの価格だったら、人気 {集まる} のも当然だ。
- (24) 近年、建設業における女性の活躍に注目が {集まって} いる。
- (25) あおり運転事故で両親を亡くした子供に多くの同情が {集まった}。

別義(1)における対象物は、複数の具体物が問題となっており、それが移動し、一箇所にとどまることを表すが、別義(5)では関心や視線など複数の人の心的営み(抽象物)が問題となっており、また、それは移動しているわけではなく、ある特定の人や物事に向けられる(注目される)ことを表す。ただし、いずれも「問題となる複数の対象物が一箇所にひとまとまりの状態が存在する(スキーマ②)」という点では共通している。つまり、別義(5)は、別義(1)からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。

## 2.2. 「あつまる」の多義構造

以上、「あつまる」について、5つの多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「あつまる」は以下のような多義構造を成していると考えられる<sup>8)</sup>。

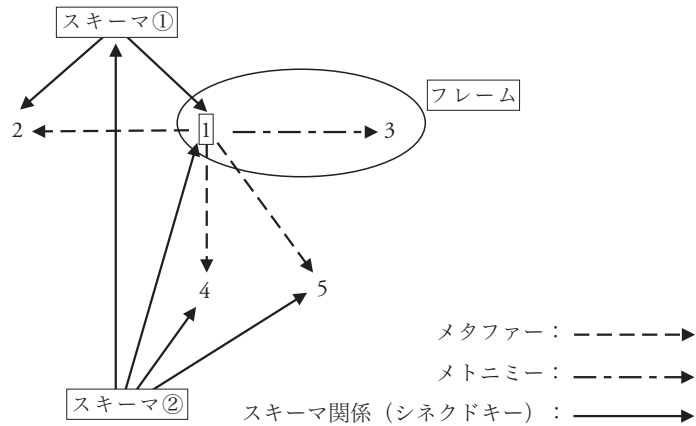


図1 「あつまる」の多義構造

以下では、〈図1〉の「あつまる」の多義構造の表記について簡略に説明をする。

- (a) 「あつまる」のプロトタイプの意味は別義(1)となる。
- (b) 別義(1)と別義(2)はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈問題となる複数の対象物が何らかの形で移動し、一箇所にひとまとまりの状態が存在する〉というスキーマ(スキーマ①)を抽出することができる。
- (c) 別義(1)と別義(3)はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「(何らかの組織への)所属」というフレーム内に位置付けることができる。つまり、「(何らかの組織に所属するための)移動」というところに注目する場合は別義(1)となり、「(移動した結果)何らかの組織の一員」というところに注目する場合は別義(3)となる。
- (d) 別義(1)と別義(4)(5)はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈問題となる複数の対象物が一箇所にひとまとまりの状態が存在する〉というスキーマ(スキーマ②)を抽出することができる。なお、スキーマ①とスキーマ②はシネクドキーの関係にある。つまり、スキーマ②はスキーマ①より高次のスキーマであるということになる。

## 3. 日本語教育の観点からの考察——コロケーションの提示と非共起例分析——

本節では、以上の「あつまる」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法に

ついて考察する。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について検討する。

### 3.1. 多義的別義(1)：〈離れた場所に存在する〉〈複数の人・組織・動物が〉〈移動して〉〈一箇所にとどまる〉

「コロケーション」

- 〈人・組織〉が：人、人々、仲間、学生、市民、若者、家族、親戚、代表、ファン、スタッフ、ボランティア、生徒、全員、客、団体、企業、軍
- 〈動物（生き物）〉が：動物、猫、魚、鳥、虫、昆虫、野鳥、蝶、馬
- 〈場所〉から：全国、世界中、各国、地域、大学、海外、国内外
- 〈場所・方向〉に（へ）：地域、家、広場、周辺、公園、現場、事務所、スタジオ、方向、周り
- 〈人〉と：友達、仲間、友人、みんな、先生、同級生、クラスメート
- 〈状態〉：たくさん、続々、どんどん、すぐ、こんなに、いっぱい、次々、三々五々、徐々に、いつの間にか、かなり、一気に

「非共起例」

- (26) a ×太郎が教室に {集まって} きた。  
 b ○太郎が教室に {入って} きた。  
 c ○生徒たちが教室に {集まって} きた。
- (27) a ×今度二人で {集まろう}。  
 b ○今度二人で {会おう}。  
 c ○今度三人で {集まろう}。

→集まる対象は、複数（人間の場合は3人以上）存在しなければならない。

- (28) a ? マラソン大会に {集まる}。  
 b ○マラソン大会に {参加する}。  
 c ○マラソン大会に多くの観衆が {集まる}。

→行動をともにするなど、目的を持つ集団に加わることを表す場合は「参加する」が適切である。

### 3.2. 多義的別義(2)：〈離れた場所に存在する〉〈複数の物事が〉〈(何らかの働きによって)移動して〉〈一箇所にとどまる〉

「コロケーション」

- 〈もの・こと〉が：金、資金、募金、食材、材料、物資、作品、雨水、原稿、応募、資料、情報、証拠、回答、データ、署名、アイディア、知恵、コンテンツ、アンケート



〈機関・組織〉に：大学、国、市、地方自治体、災害対策本部、慈善団体

〈場所〉から：全国、各地、各国、世界中、地域、海外、産地、社外

〈状態〉：たくさん、なかなか（～ない）、どんどん、すぐ、こんなに、いっぱい、次々、いつの間にか、かなり

「非共起例」

(29) a ×家の近くにコンビニがたくさん {集まった}。

b ○家の近くにコンビニがたくさん {できた}。

c ○家の近くにコンビニがたくさん {集まっている}。(別義(4)はOK)

→単にある場所にもものが(新しく)生じる場合は用いられない。離れていた複数のものが移動して、ある場所にとどまる場合に用いられる。

(30) a ?この公園にはたくさんの思い出が {集まって} いる。

b ○この公園にはたくさんの思い出が {詰まって} いる。

→何らかの働きによる移動を前提としない事柄には使いにくい。

### 3.3. 多義的別義(3)：〈複数の人や組織が〉〈ある組織の構成員になる〉

「コロケーション」

〈人・組織〉が：人、仲間、学生、会員、スタッフ、ボランティア、生徒、同志、団体、企業、軍

〈場所〉から：全国、世界中、地域、海外、国内外

〈状態〉：たくさん、なかなか（～ない）、どんどん、すぐ、こんなに、いっぱい、いつの間にか、かなり

「非共起例」

(31) a ×娘と息子が {集まった}。(別義(1)はOK)

b ○娘と息子が {できた [生まれた]}。

→家族の構成員(血縁関係)になる場合は使えない。

(32) a ×バドミントン部に {集まる} つもりです。

b ○バドミントン部に {入る [入部する]} つもりです。

→意志的な動作には使えない。

### 3.4. 多義的別義(4)：〈複数のものが〉〈一箇所に集中する〉

「コロケーション」

〈もの〉が：家、別荘、農家、木、IT企業、工場、店、機関、血管、神経、器官

〈場所〉に：田舎、市内、都心、この地域、軽井沢、側頭部、肝臓

〈状態〉：たくさん、特に、いっぱい、だいたい、ぎっしり

## 「非共起例」

- (33) a ?日本には世界文化遺産が {集まっている}。  
 b ○日本には世界文化遺産が {たくさんある}。  
 c ○日本の世界文化遺産の約5割がこの地域に {集まっている}。

→単に数が多いことを表す場合は使いにくい。ある特定の場所に集中している場合に用いられる。

- (34) a ?箱の中に、お菓子がたくさん {集まって} いる。  
 b ○箱の中に、お菓子がたくさん {詰まって} いる。

→ある場所(空間)に、単にものが(すきまなく)たくさんあることを表す場合は使いにくい。

## 3.5. 多義的別義(5):〈複数の人の心的営みが〉〈一点に向けられる〉

## 「コロケーション」

〈心的営み〉が: 関心、視線、人気、注目、期待、批判、目、評価、同情、興味

〈人・物事〉に: 人気俳優、観光地、日本、決勝戦、美容、(選手の)活躍、日銀の金融政策、原子力発電、日本アニメ、ソニー製品

〈人〉から: 世界中の人々、観光客、周囲、若者、子供、ユーザー、外国人、有権者、20代

〈様態〉: 一斉に、さらに、どんどん、こんなに、徐々に、自然に、かなり、なぜか、だんだん、一気に、非常に

## 「非共起例」

- (35) a ×無関心が {集まる}。  
 b ○有名俳優の不倫報道に関心 [注目] が {集まる}

→関心や興味などの心的営みが、特定の人・物事に向けられる(集中する)場合に用いられる。

- (36) a ×新商品に、3回人気 {集まっている}。  
 b ○新商品に、かなり人気 {集まっている}。

→関心、人気などの心的営みが集中する「程度や度合い」を表すことはできるが、助数詞を用いて数を数えることはできない。

## 4. まとめ

以上、本稿では動詞「あつまる」が持つ複数の意味を記述し、それら複数の意味の関連性(多義構造)について考察した。その結果、「あつまる」については5つの多義的別義を認定することができた。

また、別義間の関連性については、比喻の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

さらに、初山が提案する「統合モデル(ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統

合することができるモデル)」を用いて、「あつまる」の多義構造を提示した。

最後に、多義語分析の結果に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について検討した。

附記：本稿は『国立国語研究所基本動詞用法ハンドブック (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)』において、筆者が担当した「あつまる」に修正・加筆したものである。

## 注

- 1) 詳細は「参考文献」を参照されたい。
- 2) 国広 (1997: 12) は「意義素とは、ある語がいろいろの具体的な場面・文脈で示す細かな意味のゆれを取り除いたあとに残る核的な意味のことである」と定義している。
- 3) Tuggy (1993) にも同様の趣旨の主張が見られ、ambiguity (両義性)、polysemy (多義性)、vagueness (漠然性) の連続性を指摘している。なお、この3つはそれぞれ同音異義語、多義語、単義語に対応すると考えられる。また、靱山 (2016: 512) は、多義語に関する膨大な研究を詳細に検討し、多義語の多様性について「ある語（音形）に（何らかの観点から）複数の意味が想定できる場合、その複数の意味がどの程度自立性（顕著性・慣習性）を有するかは、程度問題（連続的）であるという見通しが立てられる。なお、ここでの自立性の程度とは各母語話者における定着の程度および言語共同体における慣習性の程度のことである。また、複数の意味の関連性の程度も連続的であると考えられる。つまり、単義語と同音異義語を両極とし、その中間に、各意味の自立性の程度、複数の意味の関連性の程度が異なる多様な多義語が連続的に存在すると想定される」と述べている。
- 4) 「複数の意味（多義的別義）の認定」と「プロトタイプの意味の認定」に関する考察は今後の課題とする。
- 5) 「隣接性」「関連性」については、様々なケースが考えられるが、ここでは3点を例として示す。なお、「原因と結果の関係」と「手段と目的の関係」に基づくメトニミーは時間的な隣接性からさらに進んだものとして考えられている。
- 6) 靱山 (2017: 4) は、野村 (2013)、Fillmore (1982, 1985) などの諸研究を踏まえ、フレームについて次のように定義している。  
フレームは百科事典の意味観に基づくものであり、語（等の言語表現）の意味の基盤となる背景的知识である。その背景的知识は、経験がスキーマ化・理想化されたものであるとともに、構造化されており、長期記憶に蓄えられている。さらに、ある語（等の言語表現）があるフレームを喚起し、そのフレームのある構成要素あるいは要素間の関係を焦点化する。
- 7) 本稿では別義(1)を「あつまる」のプロトタイプの意味として考える。なお、靱山 (2002: 107) は、多義語のプロトタイプの意味は「複数の意味のなかで最も基本的なもののことであり、基本的であるということは、最も確立されていて、中立的なコンテキストで最も活性化されやすい（想起されやすい）」といった特徴を有する」と説明している。
- 8) この図におけるメタファーとシネクドキーによる拡張は、Langacker (1987, 1988a, 1988b, 1999, 2008) が提案しているスキーマティック・ネットワークモデル (SNM) に基づくものである。なお、靱山 (2000, 近刊) は以上の研究に基づき、SNMは、ネットワークにおける各々の節点 (node) が、ある多義語の（何らかの程度の）自立性を有する意味を表し、節点同士は、「スキーマ関係」(schematicity) と「拡張関係」(extension) という2つの基本的なタイプの「カテゴリー化関係」(categorizing relationships) によって関連付けられると述べている。さらに、SNMにおけるスキーマ関係は、比喩の一種であるシネクドキーに相当し、拡張関係はメタファーに相当することを明らかにしている。

## 参考文献

- 北原保雄 (2011) 『明鏡国語辞典』第3版, 大修館書店.
- 金田一京助・山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄(編) (2000) 『新明解国語辞典』第5版, 三省堂.
- 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』, 大修館書店.
- 国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』, 大修館書店.
- 新村 出(編) (2008) 『広辞苑』第6版, 岩波書店.
- 野村益寛 (2013) 「フレーム (frame)」辻 幸夫(編) 『新編 認知言語学キーワード事典』, p. 317, 研究社.
- 松村 明(編) (2006) 『大辞林』第3版, 三省堂.
- 松村明(監) (2012) 『大辞泉』第2版, 小学館.
- 榎山洋介 (2000) 「名詞『もの』の多義構造—ネットワーク・モデルによる分析」, 山田 進・菊地康人・榎山洋介(編) 『日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』, pp. 177-191, ひつじ書房.
- 榎山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1, pp. 29-58, ひつじ書房.
- 榎山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』, 研究社.
- 榎山洋介・深田 智 (2003) 「第3章 意味の拡張」松本 曜編 『認知意味論』, pp. 73-134, 大修館書店.
- 榎山洋介 (2010) 『認知言語学入門』, 研究社.
- 榎山洋介 (2016) 「多義語の多様性: 典型的な多義語と単義語寄りの多義語」『日本認知言語学会論文集』第16巻, 512-517, 日本認知言語学会.
- 榎山洋介 (2017) 「フレーム・現象素・メトニミーをめぐって」第166回, 現代日本語学研究会ハンドアウト.
- 榎山洋介 (近刊) 『多義語の研究』.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』, 角川書店.
- 森山 新(編著) (2012) 『日本語多義語学習辞典 動詞編』, アルク.
- 山田忠雄・柴田 武他(編) (2012) 『新明解国語辞典』第6版, 三省堂.
- Fillmore, C. J. (1982) "Frame Semantics." *Linguistics in the Morning Calm*. pp. 111-137. Seoul: Hanshin Publishing.
- Fillmore, C. J. (1985) "Frames and the Semantics of Understanding." *Quaderni di Semantica* 6. pp. 222-254.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar* (Vol. 1). Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (1988a) "A View of Linguistic Semantics." In Brygida Rudzka-Ostyn, ed. *Topics in Cognitive Linguistics*. pp. 49-90. Amsterdam: John Benjamins.
- Langacker, R. W. (1988b) "A Usage-Based Model." In Brygida Rudzka-Ostyn, ed. *Topics in Cognitive Linguistics*. pp. 127-161. Amsterdam: John Benjamins.
- Langacker, R. W. (1999) *Grammar and Conceptualization*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Langacker, R. W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Tuggy, D. (1993) "Ambiguity, polysemy, and vagueness." *Cognitive Linguistics* 4-3. pp. 273-290.

## 例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- (1) 『NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)』 (<http://nlb.ninjal.ac.jp/>)
- (2) 『NINJAL-LWP for TWC (NLT)』 (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)
- (3) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

キーワード：多義語、多義構造、比喩表現、コロケーション

**Abstract**

A Semantic Analysis of *Atsumaru*:  
From the Viewpoint of Japanese Language Education

LEE Tackung

This text described the multiple meanings of the verb *atsumaru* in addition to discussing the relation between these multiple meanings (the polysemic structure). Resultantly, it was acknowledged that there were five equivocal different meanings acknowledged for *atsumaru*.

Furthermore, the relation between the different meanings was considered by looking at the two types of symbolic language, metaphor and metonymy, and it was thus possible to clarify the relation among the different meanings.

Finally, based on the results of a polysemy analysis, the research considered a method for effectively teaching people to learn all these different meanings. Specifically, a collocation for each different meaning was presented to promote learning, after which the examples of misuse that could be expected for each separate meaning were also presented and the causes and reasons for the misuse examined.

Keywords: polysemic word, polysemic structure, metaphorical expression, collocation